

ず～むあっぴ★

オホーツク

オホーツク流水公園（紋別市）

No.89

農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点

移住・農業・ベーカリーカフェ

良いと思えるものを伝えるための農業と商品開発

『Farmer's Break果穂』（紋別市）渡邊 真江さん

紋別市地域おこし協力隊として農作物の栽培・加工をしながら、新規就農を目指す渡邊真江さん取材しました。



地域おこし協力隊活動のきっかけ

渡邊さんは富山県などで10年以上、レストランやカフェ、オーガニック食堂の運営に携わり、食と深く関わってきました。

飲食の現場で生産者とつながるなかで、「自分がおいしいと思えた食材を届けたい」という気持ちと、「自分の手で育ててみたい」という思いが強くなっていきました。以前から、農業をするなら北海道でという思いがあったこと、また紋別市の地域おこし協力隊として活動していた友人との縁もあり、令和6年より同市で地域おこし協力隊として活動を開始しました。

渡邊さんは自身の経験を活かした地域おこし活動として、農業と作物を活かした商品開発を行い、令和7年8月には念願のベーカリーカフェ「Farmer's Break 果穂」をオープンしています。

『Farmer's Break 果穂』

Instagram (@kaho_ceres) HP ([Farmer's Break 果穂](#))

地域おこし協力隊としての農業と農産物加工品の開発

現在は、50aの畑でスペルト小麦、エゴマ、カレンデュラ（キンセンカ）を中心に、少量ながらさまざまな作物を栽培しています。少量多品種の形を大切にしながら、その土地に合う作物を見極め、育てることを重視しています。

スペルト小麦入りのパンは、紋別市に来てからすぐに作り始めたものです。現在では多くの方に親しまれ、少しずつピーターも増えてきました。これからも、自分自身が食べておいしいと思えることを大切にしながら、日々パン作りを続けていきたいと思っています。

また、栽培しているカレンデュラを活用した石鹼づくりにも取り組んでいます。自分自身が使い続けたいと思えるものを模索しながら、身近な人たちの声も聞きつつ、試作を重ねています。



未来の担い手へのエールと今後について

渡邊さんは新規就農や地域おこし協力隊を考えている方に向けて、「新しい地域での挑戦は大変なこともあります。新しい土地でも支えてくれる人や、つながれる人がきっといると思います。人との縁を大切にしながら、自分のペースで続けていってほしいです。」と話しています。

地域おこし協力隊としての活動は、3年目となる今年で一区切りとなりますが、今後も自分が納得できる作物を育てながら、自分自身がおいしいと思えるものや、暮らしのなかで使い続けたいと思えるものを、少しずつ形にして届けていきたいと考えています。